

小学校にも中学校にも1人1台のタブレット端末が整備された。授業で使うだけでなく、家にも持ち帰るようになった。昨年度から今年度にかけて、国の事業で予算がつくと、これほどまでに進むのかと恐れ入った次第である。

よくICT教育という。これは、パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信機器を使用した教育手法のことである。小学校と中学校には、1人1台の学習用端末が整備されたが、高校生はというと、補助の対象外である。タブレットを使いこなせるようになった生徒たちは、高校に進んでから、どうなってしまうのだろうか。

福島県の県立学校では、今年度から学校が認める教育活動に限り、個人所有のスマートフォンを活用することも可能となった。しかし、画面が小さく、文字入力がしづらいつとの声がある。そこで、1人1台の端末を学校で使い始めた現中学3年生が高校に進むタイミングに合わせて、令和4年度の入学生から個人所有のキーボード付きパソコンを授業で活用することになった。パソコンは各家庭で用意するようになるが、新たに購入する場合には、生徒の家庭の所得などに応じて補助されることになる。

ICT教育では、ICT機器を使うことで画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができる。そのため、生徒の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションを高めることができる。挙手して発言することが苦手な生徒でもパソコンを使った協働授業では、クラスの全生徒の意見が一斉に画面に映し出されるため、積極的に参加しやすくなる。教員からの一方通行の授業ではなく、学習の幅が広がる。

教員は、パソコンやタブレットを利用することで、板書やプリント配布など、多くの時間を短縮することができる。非常に効率的な授業が可能となる。短縮した時間では、生徒が主体的に学びを深める活動を増やせるため、授業の質が向上する。教員間で優れた教材を共有することにより、多くの生徒の学習に役立つ。

今が学びの変革期である。今こそ、従来の対面授業のよさとICT教育の“ベストミックス”な授業で、生涯に渡って自ら学べる生徒を育てていかなければならない。

個人所有の端末のメリットとしては、学校でも家庭でも文房具として活用できる、卒業後も使用できる、などが挙げられる。とはいえ、高校進学時は制服代や教科書代など出費がかさむときである。簡単に、個人所有のキーボード付きパソコンを準備できるものではないだろう。大学生が、当たり前のように、ノートパソコンを準備するのと同じように考えればいいのかもわからないが、どうも違うような気がする。

中学校でも、これからベストミックスな授業を模索していかなければならない。現中学3年生は、高校でも自分専用のタブレットが用意されているとは思わないようにしてほしい。高校は義務教育ではない。自分でキーボード付きパソコンを準備するようになる。

中学生の間は、自分のもののように自分のものではないタブレットを大切に使い、力を蓄えてほしい。そして、高校に進んだら、自分のパソコンで、さらに力をつけてほしい。